会　議　記　録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第１回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	平成２８年５月３０日（月） 午前１０時３０分～１２時００分
開催場所	高松市役所　３階　３２会議室
議　　題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンについて (3)その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、石田（雄）委員、佐野委員、東原委員、真弓委員、三井委員、宮本委員、森山委員、吉田委員、木村委員、竹内委員、粂委員、石田（良）委員、多田委員、堀口委員、管原委員
傍 聴 者	２ 人　　（定員　５　人）
担当課および連絡先	政策課（839－2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（１）会長・副会長の選任について。

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第６条第２項の規定により、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。

（会長 嘉門雅史 委員、副会長 松岡久美 委員）

また、会議は、原則として公開とすることを決定した。

議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンについて。

【別添資料により、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンについて事務局から説明】

（会長）

お気づきの点があれば、積極的に御発言いただきたい。

（委員）

観光に関しては、年間２千万人～４千万人といわれるインバウンドに大きく期待している。現在香川県では、観光協会と県全体が一緒になって実施している施策がある。

また、「瀬戸内・海の道」と「スピリチュアルな島 ～四国遍路～」が広域観光周遊ルートに認定されたこともあり、広島県に押し寄せている多くの観光客を高松に導く手法の検討や、８８か所遍路道を世界遺産にしようという一連の動きもある。

このような県主体で高松市も一緒に動くようなものに対し、圏域としてどのように連携していくのか。

会議経過及び会議結果
（事務局） 　例えば、海外誘客の促進事業は、県と高松市が連携して費用負担をしながら海外プロモーションを行う事業である。 　県主導で海外にプロモーションに行く場合、高松市のブースに、圏域市町のパンフレットを置くなどして、圏域市町のＰＲを行うといった連携を予定している。 　県と高松市だけの事業のような場合には、圏域市町の御紹介等を合わせてやっていきたい。 （会長） 　各連携事業のＰＲはできているのか。 （事務局） 　これからというところである。 　連携の進め方として、事務局レベルの会を年間複数回開催しているので、この事務局会等を通じて、まずは高松市と連携市町の関係課間の連携を深めていきたい。 　各事業のＰＲに関しては、例えば、高松市で祭りをＰＲする時に連携市町の祭りのチラシを一緒に貼りだすなどといったことを考えているが、今後、調整していきたい。 （委員） 　先日、松山で全国のＮＰＯが集まる公共交通に関するサミットあったが、そのとき、愛媛県と高知県が連携して交通のフリー切符を発行していた。香川県も他県と連携していかなければ、広島県に集まってきている観光客は愛媛県へ行ってしまう。広島県から愛媛県に向かうと、高知県へ流れていき、そこで止まってしまう。これに関しては、ＪＲとも連携した事業も必要ではないか。 　また、公共交通機関で近くの駅までは行けるものの、目的の施設までは交通手段が無い場合がある。そういうことも含めて、どうすれば観光客が公共交通を使って移動できるのかということを調べていく必要があるのではないか。 （事務局） 　御指摘いただいた観光の施策は、インバウンドなどの大きな流れの中で、この圏域で受け皿をつくり、リピーターを増やすなど、交流人口を増やす取組をどうしていくかということだと思う。 　また、広域連携について、住民のみなさんにどの程度ＰＲができているかという問題もある。 　昨年度末でビジョンをまとめたところであるが、只今の御意見も踏まえながら、さらに取組を充実させていくためには、３市５町のそれぞれが明確な意識をもって取組を進めていく必要がある。 　圏域で手をつないで、連携するというかけ声はいいが、実際にはどのように行うのかが課題になる。昨年度、御議論いただいて、今回２市５町の皆様方にも委員として御参加いただけるということにもなっているので、それぞれ身近な立場から連携について、ＰＲが足りないのではないか、こういう取組が連携として有効なのではないかなど、さまざまな御意見をいただきたい。 （委員）

全体的な話ではなく、より具体的なエピソードや、事業モデルとかいったものをもっとお互いに共有し、学び合えるような、そういったプロジェクトができればと思っている。
具体的には、この２、３年でゲストハウスが高松のまち中にたくさんできているが、そのゲストハウスに泊まっているお客様を見ると、半分は外国人である。値段的に安いということはあるが、１泊２日という単位ではなく、何泊も重ねて、いろいろなところを巡っていらっしゃるようなスタイルの方、また、そのオーナーの方とゲストの方々が、非常に濃いコミュニケーションをして地域の面白いところをお互いに紹介し合ったりするなど、お客様同士が紹介しあったりするケースがゲストハウスの特徴となっている。
高松のゲストハウスのモデルを、圏域市町の意欲のある若者、オーナーの方に少しまねていただいて、一緒に勉強をしながらやってみるというのはどうだろうか、
また、直島では先進的な民宿がたくさん出来たが、そのような事業モデルに特化した話をこの連携地域の中で、いわゆるワーキンググループのようなことをやって、ビジネスモデルを先輩から伝授するということをやっていただけるような会合ができないかと思う。

（委員）
東かがわ市に「五名やまびこの宿」というのができている。この間はじめてパンフレットを見たのだが、これではなかなか浸透しないなという感じがした。地域で一緒になって紹介してあげられると連携のメリットが非常に出てくるのではないだろうか。
また、成果をあげるために数値目標を掲げていることについて、理解はするがどうしても経済の話になり、数字的なものを優先するということになる。文化力といったところも取り上げるともう少しこの連携の意義が出てくるのではないかという気がしている。連携のメリットを生かすためには、理念が非常に大事だと思っている。
自分たちが同じグループに属して一緒に何かできることはないかということを探しはじめることが、３市５町にとって非常に必要なことではないか。地方創生ではどういう風にがんばっているかという固有のものを探しており、報道もそういった資料を求めている。
そういうものを情報提供できれば機運が盛り上がる。

（会長）
固有の活動が広がっていけば、連携の売りになる。
ところが、各地域でやっていることが、例えばこのメンバーに伝わっているかというと十分ではない。特に２市５町の方には、それぞれの売りを次回までに出していただきたい。それをこの場で共有し合って、それぞれの成功事例や失敗事例を議論して行けば、既に出ている７０事業よりも、良いものが出てくるのではないか。

（事務局）
事業を御検討いただく際の分かり易い参考例を申し上げると、実は昨年度から、ユニバーサルデザインの関係で、外から来られた方に対して、圏域の施設がどのようなサポートに対応しているのかをマップ化して、示していこうということを検討している。開発費は中心市が基本的に負担するが、それは特別交付税等で措置される。また、協力する連携市町にも一定の財政措置がある。
このような事業を御提案いただいて、事務局が持ち帰って、「やりましょう」ということになれば、連携事業に位置付けられ、一定の費用も入り、実現に繋がっていくという流れである。

今のビジョンに足りない事業を補っていきたいと考えているので御協力いただきたい。

議題（３）その他について
【別添資料により、今後のスケジュール等について事務局から説明】

（会長）
事務局の説明にもあったが、資料５の意見の提出が今後重要になる。様式には、「具体的な取組の拡充」とあるが、この枠にとらわれずに、市町にはこういう売りがあるというところを書いていただきたい。次回では、こういう取組をすれば連携がさらに進むという議論を行うための貴重な資料になるものと期待している。
本日は、２市５町の職員の方にも参加いただいている。資料作成の際には御協力いただきたい。
今日は最初の会のということで、３月末に策定したビジョンの中身の説明が中心となったが、本懇談会を活性化するという意味で、これは言っておきたいということはないか。

（委員）
資料に目を通したとき、連携の枠組みが高松市と連携２市５町という形になっていることが気になった。お隣の市町とであれば、連携の具体性も発展性も想像がつく。その取組をこの会でお話することで、圏域の連携の発展に寄与できるのではないか。

（事務局）
この瀬戸・高松広域連携中枢都市圏という制度設計が、中心市として高松市を設定し、高松市とそれぞれの市町が１対１で連携協約を結ぶことによって、結果的に高松市と２市５町での圏域が形成されるということとなっている。
仕組みとしてはそうであるが、それぞれの市町が、まず近いところからお話しされ、それをこの場で紹介して、圏域全体に広めていこうということになれば、協約に盛り込んでいくという手順もある。

（会長）
それぞれの活動を出し合って、それが広って、連携に繋がっていけばいいので遠慮せずに出していただきたい。

（事務局）
広域連携に関しては、一部事務組合という形で、ごみ処理やし尿の処理などを一緒に行うものや、個別の団体同士の連携としては、業務委託という方法など、さまざまな連携手法がある中で、一番新しいものが連携中枢である。中心市と近隣市町との１対１での関係という制度となっている。
これからの自治体の運営というのは、単独ではなかなかうまくいかない。地域の課題を解決しようという流れの中で皆様の立場から見て、こういうことが出来るのではないかということを是非、御意見いただきたい。
事務局が、制度の説明もさせていただきながら議論が深まっていけばと思っている。

（委員）
国が要綱に示している以外の事業であってもビジョンに盛り込んでいけるのか。

（事務局）
　国が示しているのはあくまで例示である。

（会長）
　是非、具体的なアイデアを出していただきたい。

（副会長）
　皆さんにお集まりいただいて出していただいた御意見は、必ず今後に生きてくる。今後も、未来志向で、前向きな御発言をいただきたい。

（会長）
　本日の会議は、以上をもって終了する。